

# みんなのデジタルリポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## イースター島の鳥人アート

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-02-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 印東, 道子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/4506">http://hdl.handle.net/10502/4506</a>

Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.

卵を持つ鳥人を描いた小石  
(Tilburg 1994, Easter Island :  
Archaeology, Ecology, and Culture. より)

# イースター島の 鳥人アート

印東道子

国立民族学博物館教授

オセアニア考古学・文化史  
研究が専門。オセアニアの  
島々で30年以上発掘調査を  
行なう。現在、出土したニ  
ワトリ骨のDNAに関して  
の研究も行なっている。著  
書に『オセアニア 暮らし  
の考古学』（朝日選書）『資  
源人類学07』（弘文堂）『イ  
モと人』（平凡社）など多数。

## 島とアートの 深い関係

イースター島とい  
えばモアイ像が有名  
です。ポリネシアの  
東端にある絶海の孤  
島に、あのユニーク  
な巨石文化がどのよ  
うに生まれたのか、多くの謎に包  
まれています。

その一方で、イースター島には  
人間と海鳥との密接な関わりを示

Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.



岩に彫刻された鳥人像  
(イースター島・オロンゴ村／2007年印東道子撮影)



オロンゴ村沖に浮かぶモツ・ヌイ島  
(2007年印東道子撮影)  
セグロアジサシの営巣地となっているこの島に泳いで卵をとりに行った

す、鳥人（タンガタ・マヌ）と呼ばれる独特のアートもありました。「頭が鳥で身体が人間」という鳥人像が、大きな岩の表面に浮き彫りにされたものや、石の表面に顔料などで描かれたものもあります。鳥人像の多くは、長く細いくちばしと大きく丸い目をもつ鳥の頭の下に、5本の指をもつ腕と2本足、つまり人間の身体を組み合わせて表現されています。なかには、手のひらに卵をのせている鳥人像を描いたものもありました。

このような鳥人アートはイースター島の約480か所で見つかっていますが、その86%は島の南西に突きだした半島にあるオロンゴ村に集中しています。この村は急峻な崖の上に位置しており、沖合のモツ・ヌイをはじめとする3つの小さな島がよく見おろせます。この小さな島がよく見おろせつつは鳥人アートと深い関係をもっているのです。

Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.

## 神の化身 「鳥人」

鳥人とは、イースター島の創造神であるマケマケが地上にあらわれた姿だと考えられています。

創造神は、ポリネシアの人々にとって神聖な存在で、強力なマナ（超自然力）をもっていました。そのため、イースター島で毎年選ばれる鳥人にも1年間はそのマナがたくさん与えられ、神の化身としてあつかわれました。鳥人になるのは非常に名誉なことでしたが、まず競争に勝つことが必要でした。

毎年9月頃に、鳥人になるための競争が行なわれましたが、それにはセグロアジサシが深いかわりをもっていました。セグロアジサシは、ふだんは海上で過ごすのですが、繁殖期にはモツ・ヌイ島にやってきて産卵します。島で最初に産みつけられた卵を手に入れた者が、その年の鳥人となるわけです。

簡単に聞こえますが、実際には

ロンゴロンゴ文字板（レプリカ）  
ところどころに鳥人をモチーフにした文字が刻まれている



Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.

羽毛製ケープ (ガウン)  
(Meyer, 1995, Oceanic Art,  
Vol. 2 より)

Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.

Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.

#### 羽毛製貨幣

(サンタクルーズ諸島・メラネシア／国立民族学博物館蔵)  
ミツスイのなかまのあざやかな赤色をした羽を細長い樹皮にはりつけ、コイル状にしたもの。長さは5～9mある

オロンゴ村から300m下の海岸まで崖を下り、そこから2km離れたモツ・ヌイ島まで泳がなくてはなりません。しかも、この海は流れが速く、サメがうようよしているので、無事に泳ぎ着くのは大変でした。鳥人になろうとする高位の戦士達は召し使いを島へ派遣し、自分の召し使いが卵を手に入れるのを対岸でいまかいまかと待ち暮らします。

最初の卵を手に入れた者は、他の卵を足で踏みつぶして自分が最初の卵を手に入れたことを宣言し、卵が割れないように泳ぎ帰って主人である戦士に渡します。この戦士がその年の鳥人となり、島の人々が交替で食事を一年間提供します。

鳥人の存在がイースター島社会にとって重要だったことは、ロンゴロンゴという絵文字(オセアニアで唯一使われた文字)に鳥人モチーフが使われたことからわかります。

Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.

Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.

Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.

Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.

A : セグロアジサン 撮影 / 中野泰敬 B : ベニハワイミツスイ 撮影 / 三好和義  
C : グンカンドリ 撮影 / 高砂淳二 D : シラオネッタイチョウ 撮影 / 中野泰敬

## 人間と鳥の関係

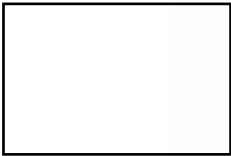
鳥人儀礼が始まったのは、イースター島の歴史においてそれほど古くなく、1760年ごろからだとされています。

その背景には、人間が居住を始めた紀元後1200年以降、急速に森林が破壊され、本来はイースター島で産卵していたセグロアジサシが無人のモツ・ヌイ島で産卵するようになったことが考えられます。

大きな木がなくなったイースター島ではカヌーを造ることもできなくなつたため、モツ・ヌイ島へは泳いで行くしかなく、鳥にとつてはより安全な産卵の場となつたのです。

なぜ人と鳥の要素が組み合わさつて「鳥人」概念が生まれたのかは明らかではありませんが、オセアニアの他の島における人間と鳥の関係を見ると、ヒントが得られるでしょう。

1つめは、主要なタンパク源と



Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.

Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.

Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.

Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.

●ポリネシアで珍重された鳥 (12 ページ以降参照)  
E: アオツラアホドリ F: クロアジサン  
海鳥は航海において進む方角の指標とされた  
撮影/中野泰敬  
G: キアシシギ H: キョウジョシギ  
首長のメッセンジャーとして神聖な鳥とされた  
撮影/戸塚 学

しての食用利用です。  
新しい島に移住した人々にとつて、鳥や卵は重要なタンパク源であつたことが、遺跡からみつかる大量の鳥の骨からわかります。実際、20世紀に

モツ・ヌイ島を訪れたヨーロッパ人は、案内してきた島の男がまたたく間に鳥の卵を100個以上も集めて食べ始めたことを記録しています。

イヌヤブタなどの家畜がいなかったイースター島では、他の島に比べて食用としての鳥やその卵

の存在がきわめて重要だつたことが指摘できます。

2 つめは、羽毛の裝飾素材としての利用です。

熱帯の陸鳥が身にまとう赤や黄色のカラフルな羽毛は、芸術センスの高いポリネシアの人々の注意をひかないはずがなく、支配者のみがまとうことを許される豪華な羽毛製マントや帽子を作るために使われました。

ソロモン諸島では、数百羽分の赤いミツスイの羽毛で羽毛貨が作られ、男性から女性に贈られる婚資として使われました。(9 頁写真)

これに対して、あまりカラフルでない海鳥の場合は、白くて長いネットタイチウの尾羽やグンカンドリリの羽毛が頭飾りなどに使われていました。

そして3 つめは、神と人との間を結ぶメッセンジャーとしての鳥です。

オセアニアでは一般に、鳥は神の使者として考えられており、

イースター島の鳥人概念は、まさにこれにあたります。鳥をたんに神からの使者としてあつかうのではなく、人間と一体化させて神の化身を創造したところにイースター島の鳥人概念のユニークさがあります。

そして、鳥人に食事を与えてもたなすことは、神に対して豊穣を祈る行為でもありました。

最後にもう1 つ重要だと思われることは、鳥人儀礼にみられる季節性です。

シーズン最初の収穫物を首長や神に捧げることは、オセアニアで広く見られた行為でした。これがイースター島では、セグロアジサシが毎年最初に産んだ卵をめぐる争奪戦へと変化したとも考えられます。

つまり、イースター島の鳥人儀礼は、人間と鳥を合体させることで、オセアニアの基層文化にみられる豊穣の祈りを、より確実に神に届ける形として昇華したものととらえることもできるでしょう。

参考文献

- Meyer, A. J. 1995 Oceanic Art. Vol.2. Koin: Konemann Verlagsgesellschaft.
- Tilburg, J. A. V. 1994 Easter Island: Archaeology, Ecology, and Culture. Washington, DC.: Smithsonian Institution Press